

身近な自然シリーズ

ヤマグワの会

笹本恵子

冬場には樹木の花は少なく、杉並区の木であるサザンカや、ツバキ、もう一つ、チャノキ(お茶)の花くらいでしょうか。いずれもツバキ科です。

山茶花 (サザンカ)



#プチ雑学!
童謡『たきび』の歌詞でもよく知られる。漢字表記の山茶花は中国語でツバキ類一般を指す山茶に由来し、サザンカの名は山茶花の本来の読みである「サンサカ」が訛ったものといわれる。「さんざか」と言ったが音位転換した現在の読みが定着した。

杉並区は今でこそ住宅街ですが、江戸時代〜明治大正昭和初期頃までは、江戸・東京の近郊農村地帯でした。武蔵野台地の畑で野菜を栽培し、青果市場へ出荷していました。農村地帯だったことの名残りとして、たとえば、竹やぶ(たけのこ)や、KSCCの万葉植物園にもあるヤマグワ(養蚕)、チャノキの生垣(製茶)

チャノキ



#プチ雑学!
学名: Camellia sinensis
加工した葉から湯・水で抽出した茶が飲用される。原産地はインド、ベトナム、中国西南部とされるが詳細は不明。茶畑栽培のほか、野生樹木を含め熱帯から暖帯のアジアに広く分布する。

があります。明治のころ、生系やお茶は輸出品として栽培が奨励された歴史があります。

柏の宮公園のお茶の木の生垣



練馬大根が有名ですが、同じ近郊農村としてこのあたりでも大根を栽培し、さらに大根そのものを売るだけではなく、大根を沢庵漬(東京沢庵)にして付加価値を高め、農家は収入増を図りました。春には茶摘みを行い、自家用茶として製茶もしていました。余剰の茶葉は業者に販売していたことでしょう。住宅地として変貌していったきっかけは関東大震災です。関東大震災で都心が壊滅し、住宅地が求められるようになったので、農地を区画整理して住宅地として提供しました。そのため、このあたりはくねくねした中に、基盤の目のように整然とした「高級住宅地」がある街並みになっています。

チャノキは、畑地の境界や道路端などに植えられ、これは冬期や初春の野菜の風害や霜害の保護の意味がありました。冬季の野菜の代表は大根ですね。大根は、「春の七草」の一つで、万葉集にも登場します。

